

# 「みことばはわたしを生かす」

## 第九回

### 「流れのほとりに植えられた木のように」

日本福音キリスト教会連合  
一宮山西キリスト教会牧師

牧岳司

くても大丈夫という植物はありません。同じように、程度の差はあったとしても、神様によって造られた私たち人間には、神様の口から出るおことばが必要なのです。

#### 今が本当に幸せですか？

**昨**年、一人のご婦人が洗礼を受けられました。それから毎週欠かさずに礼拝に來られ、帰りがけには「私は今が本当に幸せです。」と言って、「**二**」しながら家路につかれます。水を得た魚という言葉がありますが、まさにその言葉がぴったりです。

いったい何が、その方をそのようにさせているのでしょうか。私は詩篇1篇で語られていることの真実をその方の姿に見せていただいているように感じています。そして、信仰者としてすでに30年以上の歩みをして来た自分はどうだろうかと自問自答させられるのです。



#### みことばを身近なものにする

**「神**様のおことばに生きよう」と願う時、その最初のステップとして「みことばを身近なものにする」ということが挙げられます。

そこで思い出されるのが詩篇1篇の2節、3節です。「主のおしえを喜びとし 昼も夜も そのおしえを口ずさむ人。その人は流れのほとりに植えられた木。時が来ると実を結び その葉は枯れず そのなすことはすべて栄える。」とあります。

神学生時代、夏休みにイスラエルで行われていた発掘のプログラムに参加しました。イスラエルの夏は乾季にあたり雨が降りません。そのため大地は地肌がむき出しになり、植物はほとんど生えていませんでした。しかし、そのような環境の中でも、絶え間なく水が流れる水路のそばは、青々とした植物が生えていました。

植物の種類によっては、水をそれほど必要としないものもあるでしょう。けれども、全く水が無



#### 一時的に満足を与えてくれるもの

**「**の世には私たちの心を楽しませ、一時的に満足を与えてくれるものが周りに溢れています。ある方が携帯電話をスマートフォンに変えた時からゲームを始めるようになった。最初は節度を持ってやっていたけれども、気がつくと空き時間ができるといついスマートフォンを電源を入れ、ゲームに興じている自分がある。と自戒の気持ちを持って話してくださいました。がありました。



でも、この方の話はまた良い方で、同僚の先生たちからは、礼拝中にスマートフォンを取り出してゲームをしている信徒がいることや、礼拝が終わるとすぐに会堂の中でスマートフォンを取り出してゲームを始める信徒がいるという話を聞いたことがあります。心が暗くなります。そして、TPOの差はあったとしても、同じような性質は自分のうちにもあるということを正直に認めなければなりません。

#### 神さまのおことばに生かされる喜び

私は共働きの両親のもとで育ちました。赤ん坊の頃は、寝ている間、ひとり、部屋に置かれ、起き出して泣き声を上げると、母親があやしに來るといふ状態だったと聞きました。少し成長するとテレビが友達になりました。ですから、今でもテレビをよく見るのです。家族からも指摘されることがよくあります。しかし、習慣化されたものを断ち切る苦しみよりも、幼い頃から楽しみとしてきたものを奪われることへの怒りの方が勝ってしまつのです。

**私**たちは改めて、ヨハネを通して語られた神様のおことばに心を留める必要があります。「あなたがたは世も世にあるものも、愛してはいけません。もしだれかが世を愛しているなら、その人のうちに御父の愛はありません。すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢は、御父から出るものではなく、世から出るものだからです。世と、世の欲は過ぎ去ります。しかし、神のみこころを行う者は永遠に生き続けます。」(第一ヨハネ2・15〜17)

この世にあつてどんなに私たちの心をつらえ、喜びや感動や楽しみを与えてくれるものであつたとしてもそれはこの世という限定された世界の

のでしかないのです。そして、私たちはいつかの世を去ることになりますし、この世もいつまでも続くものではなく、いつしか終わりを迎えるのです。そして、その時私たちキリスト者は神様が用意された場所、天の御国に迎えられ、そこで永遠に生きるようになるのです。

そこには、この世で私たちの心をつらえてきたものはやはりありません。神様のおことばのみがあるのです。そして、私たちは語られる神様のおことばを喜び、平安、感動、感謝で心が満たされ、神様を賛美する日々を過ごすのです。

それは、言い換えれば、365日24時間の礼拝をするということではないでしょうか。そして私たちがこの地上でささげる礼拝は、やがて私たちが天の御国でささげる礼拝へと通じているものなのです。ですから、もしも、私たちが地上の礼拝を喜ばず、神様のおことばに耳を傾けることよりも他のものに心を奪われてしまっているのだとしたら、天の御国が備えられている恵みを幸いと感ずることはできないのではないでしょうか。

神様のおことばに生かされる喜びは、イエス様を信じたその時からすでに始まっているのです。ただ、それを実感するためには、これまでの生活の延長ではなく、「神様のおことばのそばに自分を置く生活」へと、生き方を変えていく必要があるのです。